



公立学校共済組合
四国中央病院

しこく

ホームページアドレス <http://www.shikoku-ctr-hsp.jp/>

第**57**号

2017年12月

住所：愛媛県四国中央市川之江町2233番地 TEL (0896) 58-3515 FAX (0896) 58-3464



もくじ

巻頭言	この頃、感じたこと	2
特集①	ナースマンが行く ～安全な手術をめざして～	3
特集②	呼吸器内科診療内容のご紹介	4・5
特集③	修正型電気けいれん療法とは？	6
南館だより	デイケア室のご紹介	7
	新任医師・職員のご紹介、編集後記、分院のご案内	8

病院理念

【真心・信頼・連携・思いやり】

広報誌

しこく

第57号 発行平成29年12月1日

編集 四国中央病院広報・年報委員会

この頃、感じたこと

副院長（第四内科部長）

にし やま せい いち
西 山 誠 一



予期せぬことが突然起こることは度々ありますが、全国ニュースのトップで松山の中心街を暴走する乗用車が映し出されたのには驚いてしまいました。愛媛で50分近くも無法地帯ができあがるとは、本当にビックリです。ただ、画面を見ていて不思議なこともありました。映画などではパトカーがけたたましくサイレンを鳴らし激しいカーチェイスが繰り広げられますが、ニュース画面にパトカーはほとんど映っていませんでした。追跡して暴走を煽り被害を拡大させないように遠くで進路を塞いでいたためだそうです。なんだか「弱腰で延々と50分も遠巻きに傍観していただけ」とも取れますし、最小限の被害で済んでいますから「深謀があり慎重に賢明に対処した」とも取れます。実際の評価は私の知る限りではありませんが、色々な状況判断や対応の仕方、あるいは評価の仕方があるのだと妙に感心しています。

色々な判断や対応といえば、先の第48回衆議院議員総選挙にも感心することが沢山ありました。「単なる権力闘争の劇場」として見れば、今回ほど示唆に富み面白かった「劇場」はないだろうと思います。その中でも、「都民ファースト」に端を発して猛烈な勢いで夢が広がり、そして急激にしぼんでしまって今や存亡の危機にある女史の周りでのドラマは出色だったと思います。独りよがりのシナリオで担ぎ上げられ、ハシゴを外され、後ろ足で蹴飛ばされた物語でしたが、「排除します」のたった一言で全てが暗転したと総括されているのはすごいことだと思います。

振り返って私たちの周りを見れば同じようなことは数限りなくあります。救急の現場に対応するには普段から訓練が不可欠ですし、色々な選択肢がなければ変化する患者さんの状況に対応できません。大規模災害を想定外と除外しておくこともできません。患者さんやその家族に対応するためには上手くコミュニケーションを取ることが必要です。よくある話は、「医者に説明してもらったが分からなかった。看護師に聞いたが、分かりにくかった。薬剤師に聞いたけどピンと来なかった。友達に聞いたら、私その薬で治ったから飲んだらと言われたので飲むことにしました」。意を尽くし双方向性のコミュニケーションによって理解を深めていないと、突然に、「排除しますと言われた」と責められないとも限りません。

私たちが心しておくべきことは、私たちは成人の集まりであるということだろうと思います。成人はそれぞれがそれぞれの思いを持って行動しています。私から彼を見れば「彼は何しているの？それヤバイよね」と見えても、彼にはそれが正しいこともあります。皆を同じ鋳型に入れられないことが大切です。しかし、私たちは同じ医療の場で働いていますから全くバラバラだというわけにはいきません。それぞれの鋳型は同じ窯の中で焼き上げられる必要があるだろうというのが、今私が思っているところです。

ナースマンが行く

「周術期管理チーム」

～安全な手術をめざして～

看護部 石川寛

四国中央病院は急性期を中心とした地域の中核病院で病床数は275床です。看護師数は204名、そのうち男性看護師は17名です。私が20年前に当院へ就職した当時は男性看護師が4名と少なく存在感がありませんでした。その後、徐々に増え、精神科病棟・一般病棟・外来・手術室にそれぞれ1～4名は在籍しています。

男性看護師のメリットと言えば、力が強く頼もしい存在であります。また、精神福祉士や、皮膚・排泄ケア認定看護師の資格を取得するなどキャリアアップにも努めています。さらに、パソコンや医療機器に詳しい人が多いということです。私は手術室に在籍していますが、腹腔鏡システムのトラブルの対処や、新しいシステムを導入した際には機器の担当を行い、他のスタッフへ伝達をするという役割を担っています。

私が手術室で勤務をしていて心がけていることは、患者さんに安全にまた安心して手術を受けていただくということです。このことを実践するために、【周術期管理チーム看護師】という資格を取得しました。そして2016年2月から、麻酔科医師と手術室スタッフとでチームを結成し、P-MAST外来（周術期管理チーム外来）を開設しました。P-MAST外来では、まず私たち周術期管理チーム看護師が患者さんの問診、内服薬や検査の確認、また手術や麻酔に対する不安などを聴き精神面での援助を行います。そして、その情報を元に麻酔科医師が診察を行い、患者さんが問題なく安全に手術を受けることができるか確認をしています。そのことでP-MAST開設以降、手術直前の検査漏れや手術中止などがほとんどなくなり安全に手術が行えるようになりました。また、ほとんどの患者さんは手術や麻酔に対する不安があります。P-MAST外来で不安が軽減できるよう関わることにより、患者さんや



家族からは「受けてよかった」、「いろいろ聞いてもらえてよかった」などと言っていただきとてもやりがいを感じています。現在、全国的には看護師が術前に外来を行う病院はまだ少ないと聞いております。これは当院の強みであるので、今後も継続していきたいと思います。

今後も看護師として「患者さんのためにベストを尽くす」ということを信念とし、これからも日々努力していきたいと思っています。

周術期管理チームとは

安全な手術を行うために、術前・術中・術後（周術期）を通して麻酔科医の診療内容を十分に理解できる看護師等（周術期管理チーム）を、日本麻酔科学会が認定しています。（近隣では岡山県にあります倉敷中央病院が認定されています）。

呼吸器内科 診療内容のご紹介

第二内科部長・臨床研究センター長

はに ふち まさ き
埴 淵 昌 毅



2017年4月に四国中央病院に赴任し、半年が経過しました。着任後は呼吸器疾患患者を中心に外来・病棟診療を行っております。

呼吸器疾患は、肺炎、気管支喘息、COPDなど一般内科の先生でも診療されるcommon diseaseから肺癌、間質性肺炎など専門性が高く予後不良な疾患まで多岐にわたります。その診断法、治療法も多様ですので、正確かつ迅速な診断と全国トップレベルを目指した質の高い治療を心がけております。

本稿では、当院呼吸器内科の診療内容につきましてご紹介させていただきます。

1. 肺癌および他の呼吸器系腫瘍

検査機器の整備に伴い、2017年6月から気管支鏡検査を実施しています。気管支鏡検査では、確実な肺癌診断を目的に超音波ガイド下の肺門・縦隔リンパ節生検 (EBUS-TBNA) や超音波による肺末梢病変の描出 (EBUS-GS) が可能な超音波気管支鏡も導入しております。2017年10月末までに計10例の肺癌疑い症例に気管支鏡検査を行い、全例で肺癌の診断が得られ、治療に結びついています。治療面では、肺癌患者の癌個性に基づく個別化 (オーダーメイド) 治療を行うとともに、化学療法、放射線療法、分子標的治療薬による集学的治療を実施しています。また、四国がんセンターなどのがん診療中核病院との連携も行っております。今後は、よりよい肺癌治療法の確立のために、新規薬剤を用いた医師主導の臨床試験にも積極的に参画していきたいと考えています。

2. 特発性間質性肺炎、膠原病関連間質性肺炎

胸部CTで間質性肺炎が疑われる症例でも気管支鏡検査を行い、気管支肺胞洗浄や経気管支肺生検を用いて疾患活動性や組織型を評価して治療方針を決定しています。特発性肺線維症に対しては抗線維化薬を、特発性肺線維症以外の特発性間質性肺炎や膠原病関連間質性肺炎に対してはステロイド・免疫抑制剤を用いた治療を実施しています。呼吸機能検査でのFVCの変化や自覚症状などを評価して治療効果判定を行っております。



3. 慢性咳嗽症候群、咳喘息・気管支喘息

8週間以上咳嗽が持続する慢性咳嗽症候群症例は増加しており、慢性咳嗽の原因疾患としては咳喘息、気管支喘息、アトピー咳嗽、胃食道逆流症などが挙げられます。当院では「咳嗽に関するガイドライン」に基づいた原因精査および治療を実施しています。また、咳喘息・気管支喘息と診断された症例ではガイドラインに沿った診療を行っています。来年度には呼気NO検査も導入予定であり、咳喘息・気管支喘息の診断率向上が期待されます。

4. 呼吸器感染症、慢性閉塞性肺疾患 (COPD)

肺炎、慢性気道感染症、抗酸菌（結核・非結核性抗酸菌）感染症に対する診断・治療や在宅酸素療法、NIPPVの導入などガイドラインに基づいた診療を行っています。2017年5月からは禁煙外来も開設し、禁煙希望患者の支援を行っています。

5. 睡眠時無呼吸症候群

ポリソムノグラフィーを用いた診断を行い、治療を要する症例にはnasal CPAPによる在宅持続陽圧呼吸療法を導入しています。

着任後まだ間がないため十分な実績は残せていませんが、近隣に呼吸器専門医が不在という背景もあり、周辺医療機関の先生方からはたくさんの患者さんをご紹介いただき、貴重な症例を数多く経験させていただいております。この場をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。

今後とも、地域中核病院の一職員として地域住民の方々に安全かつ質の高い医療を提供できるように鋭意努力して参りたいと存じます。先生方におかれましては引き続きご指導・ご鞭撻の程よろしく願いいたします。

修正型電気けいれん療法とは？

精神神経科 **佐尾 知子**

煙突に 焦がれくすぶる 三島弁、



精神科医員の佐尾です。一句詠んでみましたが如何でしょうか。四国中央病院に来て早半年が過ぎ、すっかりこちらの方言が移りつつあります。夜は少々不気味に見えていた煙突とけむりも、今では灯りに照らされて優しく、綺麗だなあと思うようになりました。

さて、前回の広報で触れた電気けいれん療法について、今回はご紹介いたします。精神科の治療といえば薬、というイメージが強い昨今ですが、実は精神科において薬物療法が一般的になったのはごく最近のこと。最も古い抗精神病薬であるクロルプロマジンが使われるようになったのが1952年ですから、本当に最近なんです。

ではそれ以前はどうしていたのか？様々な治療法が試されてきました。低血糖発作を起こさせるインスリンショック、マラリアに感染させるマラリア療法…考えれば恐ろしいことをしていたものですが、いずれも試行錯誤の中にあったものです。そんな中、1938年に電気けいれん療法が生まれました。前頭部に電極を当てて通電し、痙攣をおこさせるというものです。精神科病棟で白いガーゼに覆われた電極を頭の両側から当てられ、痙攣する人の姿、映画などで見たことのある方はいらっしゃいませんか。なかなか衝撃的で、酷いことを、と思われる光景ですが、難治性の精神疾患に大変効果のある治療法でした。…とはいえ、全身が痙攣する古い電気けいれん療法には問題点がありました。まず、骨格筋が大きく動くので、痙攣中に手足をぶつけて骨折したり、顎が外れたりといった怪我が多かった点。もう一つ、意識がある中での通電は患者さんにとって恐怖が大きかったという点です。

こういった問題点をクリアしたのが、この度当院で開始された修正型電気けいれん療法です。全身麻酔をかけて筋弛緩薬を適量用い、手術室で脳波や心電図をきちんとモニターしながら行います。通電時には眠っているため、怖い思いをすることはありませんし、手足などの骨格筋は緩んでいるので怪我につながることもほとんどありません。さらに、精神科医、麻酔科医、手術室スタッフが揃っているという非常に安全な環境下で行うことも大きな特徴です。また、始める際には頭部MRI、心電図、麻酔科診察を経て、しっかりと事前準備を行います。言うなれば、切らない手術のようなものです。なかなか薬が合わない、副作用などで薬を続けることができない患者さんにとって、とても有効な治療法です。

この修正型電気けいれん療法を行うためには、精神科医と精神科病棟、麻酔科医、手術室が揃っていかなくてはなりません。県内では愛媛大学附属病院と当院だけです。



南館だより

12月号



デイケア室のご紹介～

 デイケアスタッフ ^{はま} ^だ ^{かず} ^こ
浜田和子


現在のデイケアは土日祝日を除いた平日の、午前9時半から午後3時半まで実施しています。ゲーム、手工芸、軽スポーツなどのプログラムがあり、午前、午後でひとつずつプログラムを行っています。お昼をまたいで外出レクをし、みんなでランチやケーキを食べに行ったりといったお楽しみもあります。また、地域の精神科関係施設や病院の集まる行事に参加することもあります。

一日参加される方には給食があります。体調に合わせて半日だけ参加のショートケアや、あるいは1～2時間だけの参加の方もおられます。体調や家庭の事情によって、それぞれの参加の仕方ですこずつ慣らしていきながら、みんなと会話し、協力し合い、病気のコントロールやよりよい生活の仕方を考え、身につけてゆきます。退院後の日々の生活を送りやすくしてゆくことを目的としています。

とは言いながら、あまり難しいことはせず、みんなで会話しつつお茶を飲んだりする時間がほとんどのように思います。メンバーさん同士で病気のことを助言しあい、日々の様々な事を話す様子を見ていると、こちらが助けられているなど感じる事が多々あり、癒される気がします。

四国中央病院精神科デイケアは、外来患者様を対象としたリハビリテーション施設として、平成16年の春にオープンしました。当時は四国中央市で唯一の精神科デイケアでした。

場所は南館一階、メンタルヘルス室の向かい側にあります。オープン当初は参加メンバーも数人だったそうです。平成19年春に私がデイケアスタッフになった時はそれなりに賑やかになっておりました。



グルメマップを作りました。



ヤンセンハートカレンダーコンテストで作成したちぎり絵が入選しました。

ようこそ！ 四国中央病院へ

(平成29年6月～平成29年11月採用)



いたがき たつぞう
板垣 達三

職 種 / 消化器内科部長

趣 味 / 歴史めぐり

自己PR / 10月1日から当院に勤務することになりました。徳島県出身で、前任地は高知県でした。愛媛県勤務は今回が初めてとなります。地域医療に貢献できるよう修練に励んでいきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。



ひの ひとみ
白野 ひとみ

職 種 / 第二小児科部長

趣 味 / スキー、バレーボール

自己PR / 2年ぶりにカナダから日本に帰ってきました。食事や気候など、改めて日本の良さをかみしめています。カナダでの研究経験を糧に、小児神経と発達や漢方薬など患者さんの為に発展させていきたいと思っております。



おかもと ゆきの
岡本 由希乃

職 種 / 看護師

趣 味 / ドライブ、映画鑑賞

自己PR / 入社して3カ月の経ち仕事にも少しずつ慣れてきました。まだ分からないこともありご迷惑をお掛けしてしまうことありますが頑張っけて覚えていきたいと思っております。よろしくお祈りいたします。



にしもと さちこ
西本 幸子

職 種 / 栄養士

趣 味 / 山登り

自己PR / 4月から栄養サポートチームの業務等を担当させていただいております。大阪出身で愛媛県に住むのは初めてです。皆様のお役に立てるようがんばりますので宜しくお願い致します。

編集後記



今年は冬の訪れが早いようです。つい先日まで、台風の上陸でさわいでいたのに、すっかり寒くなりました。西条市の小学校で、愛媛県における今シーズン初めてのインフルエンザ学級閉鎖があったようです(11月21日～)。考えてみれば、日本人は1年のうち3分の1以上の期間この病気と戦っています。皆さん体調管理に気をつけましょう。そして自分自身と他人のためにマスクを正しく着用してください。

濱田 信一

広報誌しこく第57号を最後までお読み頂きましてありがとうございました。

今回は「ナースマン(男性看護師)」の特集を掲載しました。男性看護師は女性看護師とはまた違った存在感と頼もしさがあります。男性看護師の活躍にご期待下さい。

年の瀬の何かと慌ただしい季節になってきました。忙しくても「うがい・手洗い」を忘れずにおこないましょう。寒い日が続いておりますのでどうぞお大事になさってください。

最後に、広報誌しこく第57号の発行にご協力いただきました皆さまに心から感謝いたします。

高橋 幹

分院のご案内

公立学校共済組合 三島医療センター

〒799-0422 愛媛県四国中央市中之庄町1684番地2

TEL : (0896) 23-2515

FAX : (0896) 23-3827

診療科目 : 内科・循環器内科・呼吸器内科・整形外科・放射線科

ホームページ : <http://www.shikoku-ctr-hsp.jp/mishima-mc/>

※診察時間等につきましては、ホームページ、電話等でお問い合わせ下さい。

